

私立大学研究ブランディング事業

2019年度の進捗状況

学校法人番号	131023	学校法人名	実践女子学園			
大学名	実践女子大学					
事業名	源氏物語研究の学際的・国際的拠点形成					
申請タイプ	タイプB	支援期間	2018	年度～	2020	年度
参画組織	文芸資料研究所、文学部、生活科学部					
事業概要	源氏物語研究の伝統を有する本学が国際的な拠点を形成し、文理融合による独自の学際的手法によって研究を実施する。本事業により源氏物語研究の新たな展開と、日本文化の理解促進という成果が得られる。グローバル化する社会で日本文化の更なる発信が課題とされる中、本事業の成果の活用によって源氏物語を源流とする日本文化の深い教養と発信力を備えた人材を輩出し、世界と地域に貢献する教育研究機関としての地位を確立する。					
①事業目的	源氏物語は、世界最古の女流文学・長編小説のひとつであり、日本の文学・文化・社会に大きな影響を与え続けている。海外でも多くの翻訳が流通する中で、国際的にも高い評価を受けており、近年の日本文化に対する関心の高まりの中、更なる注目を集めている。本事業は、源氏物語研究について創立以来の伝統と蓄積を有する本学において、国内外の研究機関・研究者との連携のもとで学際的・国際的な研究の実施と拠点形成を行い、その成果発信をもとに本学のブランディングを行うものである。					
②2019年度の実施目標及び実施計画	<p>【研究活動】 前年度に構築した事業実施基盤のもと、①源氏物語本文の学際的探求、②源氏物語の文化的・社会的研究、③海外との共同研究の3つの柱で研究活動を本格化する。</p> <p>【ブランディング戦略】 研究活動の本格化を受け、その成果をもとにしたシンポジウム、イベント、生涯学習講座等によるブランディング戦略を展開する。また、本学の創立120周年事業と連動した本事業の周知を行い、学内外から更なる認知を得る。</p>					
③2019年度の事業成果	<p>【研究活動】 学内に設置したブランディング事業推進体制の下、以下を中心に事業を推進した。</p> <p>①超高精細マイクロスコープを用いた古典籍研究 超高精細マイクロスコープを設置し、本学が所有する古典籍資料の料紙観察を開始。龍谷大学や東洋文庫の研究者とも連携し、文理融合の古典籍研究に向けた基盤づくりを行った。</p> <p>②平安期の女房装束の復元に向けた研究 源氏物語に登場する「明石の君」の装束復元に向けた打ち合わせを開始。平安時代当時の製法により近いものでの復元を目指し、装束、衣紋道、染色など、各分野の専門家との打ち合わせを実施。</p> <p>③公開講座および学術シンポジウムにおける学術交流の実施 「源氏物語、伝統と未来」と題した公開講座および学術シンポジウムを実施。一般の方も含め500人以上が参加。様々な分野の専門家・研究者と学術交流を行った。</p> <p>④本学所蔵の古典籍資料に関する研究 古筆切を中心とした古典籍資料(文芸資料研究所所蔵等)の調査研究の継続。</p> <p>【ブランディング戦略】</p> <p>①古典の日推進委員会と共催のイベント 4月に連携協定を締結した、古典の日推進委員会と共催し、「五感でたのしむ源氏物語」と題した講演会を実施。音楽・香り・色など源氏物語の文化を五感で体感できるもので、学内外から700人以上が訪れた。</p> <p>②フランス・パリ日本文化会館での公演・展示 2020年2月「源氏物語と日本文化ー現代によみがえる源氏物語の世界」と題した公演・展示を実施。公演では、香道と衣紋道、それぞれの宗家による講演だけでなく、学生による実演も交え、現地の方々も体験できるようなイベントとなった。装束や香道具を紹介した展示にも10日間4000人以上が訪れ、盛況となった。</p> <p>③広報活動の実施 webサイトでの情報発信やマスコミへのプレスリリース、オープンキャンパスにおける事業紹介チラシの配布等、を昨年度に引き続き実施した。また、5月におこなわれた本学の120周年記念のイベントにおいて、ポスターを掲出し、本事業の紹介を行った。</p>					

<p>④2019年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 昨年度に引き続き、年度当初から計画通りの事業遂行に努めたことにより、研究活動は順調に遂行した。特に、超高精細マイクロスコープを設置したことにより、文理融合による源氏物語研究が本格的にスタートした。次年度以降は学内外の研究者の連携をさらに強化し、研究活動を推進していく。 また、昨年度から連携の準備を進めてきた古典の日推進委員会とのイベントやパリでのイベントについても、学外の連携機関や企業と調整を進めることで、成功裏に終えることができた。 なお、2020年度の研究活動およびイベントについては、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、遂行していく。</p> <p>(外部評価) 「源氏物語」をキーワードとした科目の設置学生に対する最新の研究成果の発信方法、ブランディング事業における全学的な体制での推進、「実践源氏学」といった位置付けによる他の大学、他の研究機関・研究者と異なる源氏物語研究の発信、人材育成(若手研究者の育成)の観点を踏まえた今後の展望、学生の学びへの結びつけ方等について、大学として共有し、対応について今後協議を進めてほしい。</p>
<p>⑤2019年度の補助金の使用状況</p>	<p>本事業に関わる経費として主に、研究に関わる実験・観察設備および古典籍資料の購入、本事業にかかわる各種イベントの実施・運営費用、本事業の広報費用として執行した。</p>